

2016年3月4日

研究集会のお知らせ

「ブータンの言語教育・多言語政策と国民総幸福度をめぐって」

インドと中国の間にある小国、ブータン王国は国民総生産ではなく国民総幸福度の向上を目指していることで有名です。この研究会では3年間に渡って日本国内のブータン人の聞き取り調査と2回の現地調査で知り得たことの報告と共同研究者のブータン教育審議会の上級研究員で一昨年まで政策研究大学院大学に留学していたタシ・リャモ (Ms. Tashi Lhamo) さんによるブータンの教育と言語政策および国民層幸福度の現状についてのレクチャーを行います。

ブータンはヒマラヤ山脈の裾野に展開する急峻な山岳国家で、「谷ごとに言葉がある」と言われる言語的に複雑な社会で、国語として西部の大言語ゾンカ語を用い、教育と実務の言語として英語を採用し、高校卒業生であればほとんどの国民がゾンカ語、英語、ヒンディー語、ネパール語、そして母方言の地方語を使うことができます。異文化受容能力にも語学力に長け、「国民総グローバル度」も非常に高い国家です。こうしたことに興味のある方の聴講を歓迎いたします。是非ともご参加ください。

報告者：助川泰彦 国際センター 教授

ゲスト：Ms. Tashi Lhamo, Royal Education Council, Senior Researcher

日時：2016年3月28日(月) 13時から16時半まで

場所：首都大学東京南大沢キャンパス国際交流会館 2階セミナー室

言語：日本語と英語(逐次通訳付き)

主催：国際センター

共催：首都大学東京大学院人文科学研究科人間科学専攻日本語教育学教室

参加希望の方は以下までメールで申し込んでください。

国際センター 助川泰彦 sukegawa@tmu.ac.jp

当日はブータン式のお茶と軽食の準備があります。